

harmony

— 岩手県立中部病院 地域連携便り VO1.9 —

— ごあいさつ —

院長 きたむら みちひこ
北村 道彦



日頃大変お世話になっております。

最近 2025 年問題という言葉をよく聞きます。私達団塊の世代が後期高齢者に入る時期で、医療福祉の面での大きな転換期にあたります。今後、病院機能の役割分担・再編成や、シームレス医療の展開が更に加速されることが予測されます。一方で、岩手県の脳卒中死亡率が男女ともワーストワンになってしまい、特に県南の成績が不良です。先日、県南地区の脱脳卒中に向けたキックオフミーティングが開催され、アクションプランを策定し具体的に活動して行くことが決まりました。これからは、地域連携、シームレス医療、チーム医療そして住民の方々の行動変容がキーワードであると思われま。

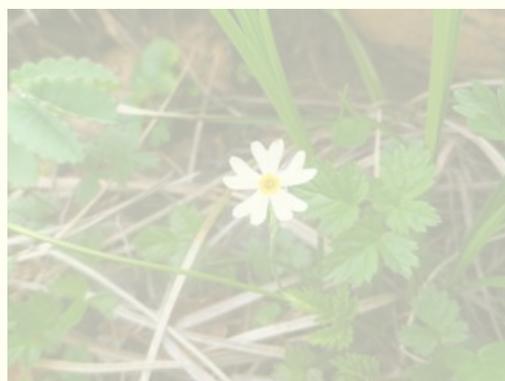
そんな中で中部病院は開院 5 年目を迎えました。患者数や平均在院日数など医事に関する数字の動きは以前ほど大きくなく、それなりの安定期に入った感があります。この時期にこそ、この時期だからこそ、連携の質の向上、今後の連携のあり方などを、考えてみたいと思っています。連携先の皆様からの、総論でも各論でもよろしいですので、沢山のご意見をお願いいたします。

今回の harmony は、本年度第 1 号として、先日行われた地域医療研究会の報告、当院の放射線治療・核医学分野の取組み紹介、当院の新しいスタッフ紹介、今後の研修会の案内等盛り沢山の内容になっております。本お便りが連携の架け橋になってくれることを切に願っています。



『そ〜らあ通信』は「太陽」・「エコ」・「青空」、そして「元気の良い掛け声」と、たくさんの意味がこめられた院長通信の名前です。

北村院長は山歩きが大好き。このコーナーでは、北村院長が山で出逢った花々を紹介しませ。



今回は、早池峰の固有種のヒメコザクラです。早池峰には何度か行っていますが、この花は雪解け直後に咲くので、なかなかタイミングが難しく、今年初めて会いました。小さく可憐な花です。群れ

て咲きますが、孤独に咲く姿に引かれます。振り返りますと、そ〜らあ通信 mini で取上げる花は白っぽく小さい花が多く、私の好み色が濃く反映される結果になっているようです。

平成25年度第1回 地域医療研究会 開催報告



8月29日（木）に今年度第1回目の地域医療研究会を開催いたしました。

一般演題は3題で、ファースト調剤薬局の伊藤薬剤師によるケアカフェでの多職種の意見交換のお話、くくる花巻訪問看護ステーションの平澤看護師による在宅ターミナルケアのお話、西大通り耳鼻咽喉科の鈴木先生より希少な悪性リンパ腫の症例について発表いただきました。指定演題は、当院石橋医師のアルガトロバン高容量療法について、総合花巻病院の澤田医師から、がん・認知症患者の在宅医療に関する報告をいただきました。最後に総合花巻病院の後藤院長先生からの特別講演で、花巻厚生病院と北上病院の統合の際のご苦労話や総合花巻病院と当院との連携に関するお話をお聴きしました。

院内外より多職種の参加者 125 名にお集まりいただき、あらためて当院の運営が地域の皆様に支えられていることを感じました。

詳細未定ではありますが、今年度中に第2回目の開催も予定しておりますので、多くの皆様のご参加をよろしくお願いいたします。

＝放射線治療・核医学分野での取り組み＝ 《6回シリーズ第6回》

⁹⁰Y(イットリウム 90)を用いた悪性リンパ腫の免疫核医学治療

放射線治療科長 小原 東也 おばら とうや

腫瘍特異的抗原に対するモノクローナル抗体に放射性核種を結合させ、抗体の働きで腫瘍に運ばれた放射性核種による内照射効果を用いて治療を行なう「免疫核医学」は、かなり長い間研究されてきたテーマでしたが、いくつかの課題があって実用に供するには至っていませんでした。平成20年6月、こうした課題の克服に成功して、悪性リンパ腫の一部に対する適応を持った製剤「イブリツモマブ」（商品名：ゼヴァリン）が薬価収載となり、当院でもこの実施体制の確立に向けて準備を進めてきました。そして、東日本大震災で実施時期に多少影響を受けたものの、平成23年4月、県内で最初の治療症例を手掛けることができ、良好な成果が得られました。平成24年現在、岩手県内でこの治療に対応できるのは当院のみであり、今後も本治療については当院がその実施機関として県内全域のニーズに対応する体制が続く見込みです。適応としてかなり限られたものであることや、実費がかなり高額（診断用¹¹¹In セットが約180万円、治療用⁹⁰Y セットが約250万円で、これを1組にして使うので、製剤の値段だけで1回の治療分の合計が約430万円となる）となることなど、扱いが難しいものですので、使用に関する判断は血液内科の先生にお願いすることになります。適応になりそうな症例についてのご相談は当院血液内科まで。

新任医師紹介

平成 25 年 5 月 1 日以降に着任した医師です。どうぞよろしくお願いいたします。



氏名	小山田 尚（こやまだ のぞみ）	（7月1日から）
診療科・役名	外科・第3外科長	
所属学会	日本消化器外科学会（指導医）日本肝胆膵外科学会（高度技能医指導医）	
ひとこと	岩手県中部地域の方々のために一生懸命がんばります。	



氏名	豊島 将文（とよしま まさふみ）	（7月1日から）
診療科・役名	産婦人科・医長	
所属学会	日本産科婦人科学会（専門医）	
ひとこと	どうぞよろしくお願いいたします。	

== 退任医師 == 外科 濱田 庸(6/30 付)・産婦人科 松田 尚美(6/30 付)

中部病院「出前講座」の御紹介

『出前講座』は地域の皆さんの希望に応じて、中部病院のそれぞれの分野の担当者が、地域に出向いて専門知識を生かした講座を行うものです。講師料は無料で、メニューは5講座です。地域の集まりや自治体、職場の勉強会などどこへでもおじゃまします。

写真は7月26日に北上市のケアハウスエスカールで開催された「出前講座」の様子です。終始和やかな雰囲気、皆さん熱心に話しに耳を傾け「大変参考になった」という感想を頂きました。

今後も、中部病院を知って頂くために積極的に「出前講座」に出向いて行きたいと思っています。

詳しいお申込方法などは、中部病院「地域医療福祉連携室」（0197-71-1511）までお問い合わせください。



== ☆★ 中部病院からの出前メニュー ★☆ ==

1. 「お口健やか肺炎予防」
～明日の元気はお口から～
2. 「救急受診」
～その前に家庭でできる対応～
3. 「おいしく楽しく出来る食事コントロールのはなし」
～まだ大丈夫な方からもうピンチな方まで～
4. 「がんになっても安心して暮らせる町をめざして」
～がんという病気と緩和ケア～
5. 「皆で守ろう地域の医療」 ～かかりつけ医と病院の役割を知って賢い受診を～

地域医療福祉連携室からのお願い

◇当院は予約制です◇基本的に外来診療は予約制とさせていただきます。患者さんが予約なしに紹介状をお持ちいただいた場合、長時間お待たせしたり、外来の状況によっては予約を取り直して後日来院いただくこともありますので、お手数をおかけしますが緊急の方以外はFAXで事前予約のお申込をいただくようご協力をお願いいたします。



研修会のお知らせ

当院では、様々な研修会を企画しており、随時みなさまにご案内いたします。
申込は不要です。多数の参加をお待ちしております。

○開催場所：中部病院 2 階講堂

研修名	研修内容	月日	講師
救急看護	②人工呼吸器装着患者のケア	10/9(水)	救急看護認定看護師 中村 舞
摂食・嚥下障害看護	食事介助とリスク管理	10/16(水)	摂食嚥下障害看護認定看護師 小笠原 千恵
がんサーボード	「肺がんの診断と治療について」 「肺がんにおける最近の知見」	9/30(月)	中部病院消化器内科医長 渡邊 崇 東北大学病院がんセンター特命教授 森隆弘先生
医科歯科連携研修会	②<実技編> 歯ブラシの優しい当て方、口の開け方、スポンジブラシの使い方	10/22(火)	歯科衛生士 赤坂 幾子
	③<上級編> 口腔ケアのみなさんの疑問にお答えします。がんと認知症の口腔ケアについて	未定	
退院支援研修会	医療介護福祉関連職種交流会	9/26(木)	退院支援看護師 高橋 瑞枝
緩和ケア研修会	患者・家族の支援に役立つ医療者としての心構え～燃え尽きないために～	11/14(木)	国立がん研究センター東病院 緩和医療科長 木下 寛也先生

○開催時間 18:00～（研修内容によって時間が異なりますので、地域医療福祉連携室までご確認ください。）

地域医療福祉連携室メンバー紹介

米内 真理子（よない まりこ）

医療社会事業士

MSWとしても1年目で至らぬ点もありますが、よろしく願いいたします。



高橋 瑞枝（たかはし みずえ）

退院支援看護師

「縁の下の力持ち」になれるようがんばります。

赤坂 幾子（あかさか いくこ）

歯科衛生士

「食べるお口を大切に」皆様のお口が健やかであるようにお手伝いいたします。

岩手県立中部病院 地域医療福祉連携室

〒024-8507 岩手県北上市村崎野 17 番 10 号

TEL 0197-71-1511 FAX0197-71-1881（地域連携室専用）

URL <http://www.chubu-hp.com/>

（平成 25 年 10 月）

